

道路損傷や交通状況など監視

Jシステム カメラシステムを提供

能登半島地震の復旧に貢献

クラウド監視映像システム「アクティブネット」を展開しているJシステム（石川県金沢市、後山

潤一社長）は、能登半島地震における被災地の復旧・復興で、被害を受け

た道路の損傷や交通状況を監視するため、カメラシステム一式を提供している。

道路の交通状況などを監視するJシステムのカメラシステム



具体的には、国道249号の道路破損地区および、迂回路の渋滞確認が目的で、同社がこれまで培ってきた全国の高速度道路におけるカメラ設置ノウハウなどを生かし、迅速に設置した。現地にはカメラをはじめ、カメラ用電源（バッテリー）も設置。同社では設置工事から調整、保守管理も担当する。

カメラシステムの設置により、素早い復旧工事への対応が可能になるとともに、余震に伴う2次

災害の回避のほか、被災地における犯罪や不正行為、トラブルなどを未然に防ぐ事ができ、被災し

た地域の人たちの防犯、復旧工事に関わる建設業の安心・安全に大きく貢献できる。

今後、関係機関などの要請に応じ、山間部の土砂崩れにより形成された天然ダム（土砂ダム）の監視用としても設置されるとみられる。

同社では「被災地域の一刻も早い復旧・復興のため、Jシステムとして可能な限りの支援に取り組みたい。特に今、電源がない地域や電波の届きにくい場所でも相談に応じたい」（後山社長）としている。